

第3回野外体験保育有効性調査・検討委員会の概要

1 委員会概要

- (1) 日 時 平成28年1月29日 午前10時～正午
- (2) 場 所 三重県吉田山会館 3階 302会議室
- (3) 委員出席者 池田委員、井上委員、宇佐美委員、木戸委員

2 要 旨

野外体験保育有効性調査の調査結果の概要について説明するとともに、調査で明らかとなった野外体験を進める上での課題への対応を中心に普及方策についてご意見をいただきました。今後、これらの意見を踏まえて報告書を取りまとめていくこととします。

3 報告内容（委員からの意見）

○野外体験保育有効性調査の結果について

- ・全体的に興味深い内容であった。野外体験の取組が一番少ないグループのニーズが低いのは、あきらめているのだと思う。
- ・野外体験保育を進めるための課題がある中で、頑張っており取り組んでいる施設が取り組む理由を報告書に含めて欲しい。
→（事務局）野外体験保育に積極的に取り組んでいる施設へのヒアリング調査において、保育のポリシーを聞いているので、これを掲載していく。

○野外体験保育の普及方策について

（1）安全性の確保について

- ・施設の課題として、施設の努力と、これに取り組もうとする機運を醸成する県のPRが必要だと考える。
- ・野外体験は、予測できないことを経験させることが大切であるが、職員は予測できないこと自体が怖い。これを乗り越えさせる必要がある。

（2）職員の負担増について

- ・野外体験保育に取り組もうとしても、限られた時間、人員の中で、今行っている他の業務を減らさないと難しいのではないか。
- ・職員は、目の前の行事（発表会等）や保護者の対応で精一杯な現状がある。こうした中、野外体験保育の優先順位はどうしても低くなる。園長等に対して、野外体験保育が重要であることを啓発し、こうした現状を変えていく必要がある。

（3）フィールドのなさ（少なさ）について

- ・自然であれば何でもよい訳ではなく、そもそも、どのようなフィールド

が幼児期の体験活動に適しているのかを考え、これに見合った県内のフィールドが紹介できればよいのではないか。(市町域を超えて使用できるフィールド)

- ・園庭も活用次第で自然を体験することができる。

(4) 職員のスキルアップについて

- ・自然体験の経験が少ない人には、研修の効果が低い。専任のスタッフを園に送り込み、企画から実施まで行ってはどうか。
- ・私の大学(大阪大谷大学)では、自然体験ができる保育士を養成しているが、もともと自然が好きでない子ども、実際に子どもが変化する姿を見ると、子どもたちに「自然を体験させたい、学ばせたい」という思いが芽生える。

(5) 保護者・地域の関わりについて

- ・野外体験保育の普及には保護者の意識を変えることが重要。
- ・保育施設が一步踏み出して、野外体験保育に取り組み、その効果が実感できれば、保護者の意識も変わってくる。

(6) 共通・その他

- ・花まる学習会の高濱先生の講演を聴き、「今の子どもたちには実体験や人との関わりが不足している」という部分に共感した。
- ・安全性の確保やフィールドの問題は、保育者ができないと思い込んでいる側面もある、こうした意識を変えていく必要がある。
- ・普及啓発は、現場の実状に合っていないければ、共感は得られず進まない。
- ・施設が抱える一般的な課題が、野外体験保育を取り入れることで解決できることはないだろうか。これをPRできると啓発の効果が高い。
- ・例えば年に3回野外体験保育を行っても、日頃の保育を変えないと効果がない。
- ・保育者の意識を変えるには、自然体験により子どもが成長していく姿を目の当たりにすると、変わっていく。若い人に、こうした保育を体験させたい。
- ・やる気のある施設を支援することが大切ではないか。
- ・施設には年間のスケジュールがある。例えば、モデル園の募集などは、6月くらいまでにアプローチしないと難しい。

